

第2回神奈川県流域下水道経営懇話会
議事録

日時：令和2年9月11日（金）14：00～16：00

場所：日本大通7ビル502会議室

会議次第

1 開会

2 議事

(1) 神奈川県流域下水道中期ビジョンの検証結果について

(2) 神奈川県流域下水道経営ビジョンについて

(3) その他

3 閉会

【1 開会】

○県土整備局 河川下水道部 下水道課 課長

【2 議事 (1) 神奈川県流域下水道中期ビジョンの検証結果について】

特になし

【2 議事 (2) 神奈川県流域下水道経営ビジョンについて】

(宇野様)

提案：コロナ禍でありながら作業がかなり進んでいると感じる。全体的な流れに問題はなく、果たしてきた役割がしっかり書き込まれている。

資料2の13枚目まではエビデンスに基づいているが、14枚目からは写真が多くエビデンスが少ない。例えば、下水道資源の有効利用であれば今までの有効利用割合を示すなど、もう少し数値で示してほしい。

18枚目は果たしてきた役割となっているが、「建設から維持の時代へ」というタイトルと整合が取れていない。記述内容は非常時の事業継続について書かれているので、タイトルもその内容にふさわしいものにすべきではないか。

(事務局)

回答：18枚目では、災害時でも下水道サービスを提供してきたことを強調したいと考えていた。確かに「建設から維持の時代へ」というタイトルは役割ではない。緑の下の力持ちという点が伝わる表現に修正する。

(宇野様)

質問：基本理念は以前見たものからどう変わったのか。

(事務局)

回答：以前のヒアリングで、課題の後に基本理念ではなく基本理念を最初に記述するようアドバイスをいただいたので、並び替えた。基本理念の文言・要素は変わっていない。

(宇野様)

意見：雨天時浸入水対策をソフト対策としているが、ソフト対策は、計画を策定する、雨水浸透柵に補助を出すなどのイメージである。内容を見ると、雨水の浸入対策を一つの項目としても良いと思う。今、県民の雨水対策にかかる関心も高い。

(事務局)

回答：「雨天時浸入水対策」を施策の柱の一つとするか、「ソフト対策」の一つとするかは、検討させてほしい。

雨水浸入について、発生源対策を10年以上継続しているが、ほとんど効果がない。この結果を踏まえると、貯留施設の建設といった思い切ったハード整備を考えなくてはいけない段階にある。

相模川流域下水道では、まず、寒川平塚幹線を整備しなければならない。寒川平塚幹線には貯留機能もあり、計画期間内に整備できる予定なので、その状況もあるが、貯留施設の計画は策定したい。

(宇野様)

意見：市町の施設において老朽化が進むと、雨水の浸入が酷くなる可能性があるもので、しっかり対策を取るべきである。

(事務局)

回答：雨天時浸入水を処理場ですべて受け入れることはできないので、市町に協力を依頼し、引き続き発生源対策を行っていく。

(宇野様)

質問：発生源対策について、他の流域下水道で良い取組みはないのか。

(事務局)

回答：国が雨天時浸入水対策について動き出しているが、国の示す対策の基本は、発生源対策となっている。雨天時浸入水の原因の一つである、各住宅の雨どいと下水管がつながる誤接続については、下水道管理者で対応できず、利用者に改善をお願いすることになるので、改善が進まない。

(宇野様)

意見：県と流域関連市町の複数の管理者がいるため、単独で管理している横浜市等と比べて雨天時浸入水が多いのであれば、市町と連携して工夫が必要である。

(事務局)

回答：流域下水道の処理場は感覚的には他自治体と比べて雨天時浸入水が多い印象である。公共下水道では、処理場管理と管路管理の部署が別々であるが、一人の管理者であるので対応できる体制があるが、流域下水道は、処理場と管路の管理者が別なので、上手くいかない面がある。

(宇野様)

意見：何か工夫が必要である。例えば負担金などで解決できないか。

(事務局)

回答：貯留施設についても、処理場に設置するのでは処理場周辺がリスクを抱えることに変わりがないので、例えば流域関連市町に流域幹線との接続点の前に貯留施設を設置する等、流域関連市町にもリスクを持ってもらうことが必要だと考えている。

(宇野様)

提案：経営指標とするかは検討を要するが、雨天時浸入水量の比率を管理し、下げる目標を持っていても良い。比率が下がってくれば、貯留施設の整備が不要となる。

(事務局)

回答：浸入水対策は全て市町の負担で行っている。浸入水対策が、流域下水道の経営に影響しないことが原則と考えている。

(宇野様)

意見：ハード整備により市町の将来の負担が著しく増えるのであれば、流域下水道でハード整備を行いたくても行えなくなることも考えられる。流域下水道単体というよりは、流域関連市町を含めた流域下水道全体でコストを下げる必要がある。このことが、流域下水道の経営の改善につながる。

(宇野様)

意見：主要施策について、分かりやすい印象ではあるが、下水道の役割を考えると、「効果的な老朽化対策」ではなく、「水環境の保全」が最初に来るべきではないか。環境系の施策は、最後に位置づけられ忘れられがちである。下水道は、環境保全、衛生的な生活をするためのもので、それを実現するために施設を維持する、老朽化対策を行う、そして非常時にも継続させなければいけない、というイメージがある。昨今のテーマであるSDGsについて言及してみることも考えられる。

(事務局)

回答：どの順番で取組みを並べるのかについては、議論が足りていない部分である。25枚目に少しSDGsに関する記述を入れているが、どのように組み込むか決まっていない。課題の一つとすることを検討したい。

(宇野様)

質問：感染症対策を課題に入れるべきではないか。感染症を防ぐという観点で、下水道サービスの必要性は増している。

(事務局)

回答：衛生環境に関わる問題なので、課題のところに入れる必要がある。

(宇野様)

質問：下水道整備が満足度1位というのは本当なのか。下水道の未普及が多い時代であれば納得できる結果だが、驚きである。

(事務局)

回答：下水道整備が満足度1位は事実である。ただ、普及状況の差から、県内で地域差はある。普及の低い昭和の時代からのアンケート結果を載せて、変化を見せることも検討したい。

(宇野様)

意見：流域関連市町との連携や、流域関連市町の部分も含めた下水道システムに関する事が書いてあっても良いと思った。流域下水道と市町下水道の両方が良くないと、下水道システムとして良く機能しないと考える。例えば、老朽化でいえば、流域下水道の対策が十分でも、流域関連市町の対策が不十分であれば、市町に対策をしてもらわないといけない。下水道はシステムなので両者のバランスが取れていないといけない。
また、下水道ネットワークとしては、広域化・共同化があっても良いと思った。

(事務局)

回答：広域化・共同化については次回の第3回懇話会でお話しする。

(宇野様)

質問：管渠の改築は全く実施しないのか。

(事務局)

回答：基本的には実施しないが、腐食が発生している部分もあるため、定期的に点検を行い、悪い部分については補修を行う。

(宇野様)

質問：点検サイクルなどがKPIになるのか。

(事務局)

回答：その予定である。

(宇野様)

質問：消化ガスの取組みは行わないのか。

(事務局)

回答：一度民間企業に検討をしてもらったが、事業採算性が合わないという結果であった。

(宇野様)

質問：固形燃料化を主体に取り組むということか。

(事務局)

回答：検討はしているが、燃料の需要があるかということと、事業採算性の問題がある。

【2 議事 (3) その他】

なし